

## 18. 大分県飼料作物奨励品種の選定について

農林水産研究指導センター畜産研究部

○照山友実子・石井怜・齊藤武志

### 【背景】

- ・ 輸入飼料価格の高騰により自給飼料が非常に重要である。
- ・ 自給飼料の種子について、多くの農家が安価なブレッド種（旧名モン種）を購入しているが、特性が不明であるため安定した収量は得られない。
- ・ 農家は労働力が限られている中で、収量が多く、耐病性や耐倒伏性などの特性に優れている品種を選ぶ必要があり、個々の農家の経営条件に適した飼料の品種選定が重要である。また国の事業を活用する場合は奨励品種の種子を選択する必要があるため重要である。
- ・ さらに本県の平均気温は30年前と比較しては2.0度上がり、この気候変動に対応できる品種を選定する必要がある。
- ・ 当部ではおよそ55年前から国及び九州各県と協力し、本県の自然条件および農家の経営条件に適した飼料の奨励品種を選定するために品種の比較試験を行っている。

### 【材料及び方法】

- ・ 試験品種：飼料用トウモロコシ、イタリアライグラス、ソルガム、スダングラス、オーチャートグラス、ペレニアルライグラス等
- ・ 試験場所：竹田市久住町（標高680m）、豊後大野市三重町（標高160m）
- ・ 調査項目：耐病性、耐倒伏性、収量など（系統適応性検定試験実施要領を参考）

### 【成果】

- ・ 10年間でイタリアライグラス8品種、飼料用トウモロコシ8品種、ソルガム・スダングラス7品種、その他7品種の計30品種が大分県飼料作物奨励品種となった。また、気候変動に対応できる品種として、越夏性に優れたオーチャートグラスおよびペレニアルライグラスを選定した。
- ・ 10年間で農家の現場において14種類の現場実証圃を設置。
- ・ 令和3年度に大分県飼料作物奨励品種一覧表のパンフレットを作成し、課題解決研修や専門技術研修において普及指導員等へ栽培技術等について講義した。

### 【今後の課題】

- ・ 令和4年の県内に流通する飼料作物種子に対する奨励品種の割合は28%とまだ少ない状況である。そのため今後も振興局と協力し、農家により優れた種子を紹介する必要がある。
- ・ 本試験では狭い面積での結果であるため引き続き現地実証圃を行う予定。
- ・ 令和7年度に越夏性に優れたオーチャートグラス「まきばゆうか」については研究課題「牧野の維持の検討」においてより効果的に管理するための試験を行う予定である。